



河小だより

四日市市立河原田小学校
学校通信 第17号
令和7年2月20日(木)
文責 校長 福井 宣行



3学期が始まったと思いきや、早いものでもう2月も下旬になりました。寒い日がしばらく続きます。幸い本校ではインフルエンザやコロナによる学級閉鎖はありませんが、引き続き予防に努めていきましょう。

6年生を送る会リハーサル

2月18日(火)に6年生を送る会のリハーサルを行いました。当日は、寒波が到来し、雪が積もる寒い日でしたが、保護者や学校運営委員の方々にも観覧いただきました。



リハーサルながら、6年生を送る気持ち、在校生に送られる気持ちが伝わる内容でした。また、どの学年の子にも成長が感じられました。

本番当日、6年生・在校生お互いに思いを伝え、心に残る会にしてくれることを期待しています。そして、卒業を控えた6年生も在校生もみな残りの期間の1日1日を大切に過ごしてもらいたいと思います。

次に向かってすすむために

突然ですが、皆さんは、「アンパンマンのマーチ」を知っていますか？アンパンマンの作者であるやなせたかしさんが作詞したものです。その歌詞の中に次のようなフレーズがあります。

♪ なんのためにうまれて なにをしていきるのか？ こたえられないなんて そんなのはいやだ
♪ なにがきみのしあわせ？ なにをしてよろこぶ？ わからないままおわる そんなのはいやだ

何気なく口ずさんでいますが、あらためて聞くととても考えさせられる内容です。

一説によると、「アンパンマンのマーチ」は、やなせたかしの弟が戦争で特攻隊として出撃したという経験をうけ、やなせさんが彼に対する思いや戦争のやるせなさのようなものを、歌詞に込めたと言われています。そのため、この歌詞には、「今を生きる」ことへの強い意志が込められているとも言われます。

日本財団が日本、米国、英国、中国、韓国、インドの6カ国で各1000人の若者を対象に実施した「18歳意識調査」で、「自分自身に将来の夢があるか」との問いに、「どちらかといえば」も含めて「ある」と回答した割合は、他国が概ね8割以上の中、日本は60.1%と低くなっています。

本当はやりたいことだけをしたいというのは、子どものみならず人の素直な気持ちです。特に、子どもは、自分にメリットがあるかどうか、行動の判断になることが多くあります。具体的に、「我慢すること」を例にとると、

○今我慢することで、後でメリット(褒めてもらえる、ごほうびがあるなど)がある → 我慢しやすい

×今我慢しても、後でメリットがない → 我慢し損になるため、我慢できなくなりやすい

望ましい行為をしたときに子どもを褒めるということには、このような意味もあるのです。(逆に、大人がきちんと褒めないと、子どもは「メリットがない＝我慢し損」と判断してしまいやすくなります)

しかし、世の中「メリットがないとできない」だけで渡って行けるものではありません。そのために大切なものが、「目的」です。やりたくなくてもやらなければならないことは、「自分にとって意味がある目的とは何か？」と考え、定めることが原動力になります。逆に、目的なしでは、辛くなると途中で辞めてしまうことにつながってしまいます。

先に紹介した「アンパンマンのマーチ」の歌詞は、人が目的をもって、幸せに生きるための大きな目的を設定することの大切さを伝えてくれていると感じることができます。

小学校という時期に子どもたちは、将来に対して夢や希望を抱きます。小学校では、生き方や進路に対する基礎的な考えや能力を養い、夢に向かって頑張るエネルギーを蓄えるためにキャリア教育を進めているところでは、

ご家庭でも子どもと将来の夢や仕事について語り合い、保護者の皆さんが体験した働くことの楽しさや厳しさなどを伝えてあげてください。そして「将来の夢がある」と胸を張って言える子どもを共に育てていきたいと思えます。それがきっと、次に向かって進むための原動力となっていくことでしょう。